

令和6年4月25日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：ウメ、モモ、スモモ、カキ、カンキツ
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：4月下旬～
6. 注意報発表の根拠

チャバネアオカメムシについては3月28日付けで令和5年度病害虫防除技術情報（第4号）を発表したところであるが、その後も以下のとおりチャバネアオカメムシを含む果樹カメムシ類の多発傾向が継続している。

- 1) 紀の川市粉河の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが13頭（平成1.3頭）、ツヤアオカメムシが23頭（同2.1頭）であった（表1）。
 - 2) 有田川町奥の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが25頭（平成0.9頭）、ツヤアオカメムシが51頭（同1.2頭）であった（表2）。
 - 3) みなべ町東本庄の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが5頭（平成1.4頭）、ツヤアオカメムシが150頭（同22.0頭）であった（表3）。
 - 4) 令和6年4月18日付気象庁発表の1か月予報（4/20～5/19）では、近畿地方の平均気温は高い確率が80%とされており、果樹カメムシ類の飛来が急増すると予想される。
7. 防除上の注意事項
 - 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - 2) 山林に隣接するほ場はカメムシ類の飛来時期が早いので、ほ場内での発生状況を観察して早めに防除する。ウメでは被害の品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、特に注意が必要である。カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。

- 3) 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報
 (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>) や各地域の振興局、JA等の情報を参考にする。
- 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。

表1 紀の川市粉河の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（頭）

		チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
4月	1～5日	0	0	0	0	0	0.1
	6～10日	0	0	0	0	0	0
	11～15日	0	0	1.1	6	0	1.9
	16～20日	13	0	0.2	17	0	0.1
	21～25日	—	0	1.8	—	0	3.1
	26～30日	—	0	3.8	—	3	8.4

—は未調査

表2 有田川町奥の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（頭）

		チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
4月	1～5日	0	0	0	3	0	0.2
	6～10日	0	0	0.1	0	0	0.2
	11～15日	5	0	0.4	6	0	0.2
	16～20日	20	0	0.4	42	0	0.6
	21～25日	—	0	0.2	—	0	2.7
	26～30日	—	1	2.8	—	3	7.5

—は未調査

表3 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（頭）

		チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
4月	1～5日	1	0	0	19	0	1.5
	6～10日	0	1	0.1	18	0	0.9
	11～15日	0	0	0.4	8	2	14.8
	16～20日	4	3	0.9	105	14	4.8
	21～25日	—	1	15.6	—	8	84.2
	26～30日	—	0	18.3	—	4	118.9

—は未調査

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在 (0736-73-2274)
有田川駐在 (0737-52-4320)
みなべ駐在 (0739-74-3780)